

長岡市長記者会見要旨

日 時：令和 8 年 3 月 12 日（木）午前 9 時 30 分から

会 場：アオーレ長岡 東棟 4 階 大会議室

【 令和 8 年 4 月 1 日付け人事異動について 】

<市長>

令和 8 年 4 月 1 日付けの人事異動についてです。新しい政策課題が出てきているなかで、適材適所の人事配置が、今ほど強く求められている時期はないと認識しております。それと共に、職員には人事ローテーションを積極的に行うことにより、新たに仕事に対する意欲を掻き立てていただきたいと思いますと思っています。今回の異動規模は、804人と例年と同等です。

項番 1 です。市民協働推進部のコミュニティ推進担当を、地域振興戦略部の中に統合し、「地域政策部」と改称し、地域政策監に佐々木越路支所長を登用しました。また、本庁との連携強化や、支所の地域課題、人口減少の中での地域振興の課題が大きくなっていますので、本庁での経験が豊富な職員を各支所長に配置しております。

さらに、公共建築物の適正管理を本格的に行っていく時期になりますので、財産管理部を新設し、部長には大野財務部長を起用します。また、財産活用担当課長に、寺山財産マネジメント課長補佐を登用します。

項番 3 ですが、女性職員の積極的登用ということで、女性の管理職は 25 人で 17.6%、前年比 0.6 ポイントの増になっております。

<記者>

17.6%という比率について、目標数字、達成度をご説明いただけるとありがたいです。

<総務部長>

登用率の目標は、特定事業主行動計画で定めており、7年度までの数値は、17.5%を目標にしていました。8年度以降の目標数値は今後設定することになります。

<記者>

17.6%になるのは令和 8 年ですか。

<総務部長>

令和 8 年度です。

<記者>

本年度は行革担当、土木部長と兼務の理事がいたかと思います。新しい人事では、理事級としては産業政策監がいらっしゃると思いますが、ほかは理事を置かないことになりますか。

<市長>

1人になるということです。

非常に大きな政策課題があるときは、理事級として全庁的な指揮、命令系統をそこに集中していくという判断で、野口理事はそういう立場で行財政運営プランを作ってきましたが、一段落し、それを実行するのは各部局の仕事になりますので、そこに理事は置かない考えです。産業政策監は、そのままの形で継続します。

これからも何か大きな課題、特に政策課題の各部局にまたがるような大きなものが出てきた場合には、そのような役職も考えていきたいと思っております。

<記者>

新設された地域政策部、財産管理部について、どのような思いで新設されたのか、部局長にどのようなことを期待したいかを、市長のお言葉をいただけますでしょうか。

<市長>

合併してかなり時間が経ち、支所地域の問題は旧長岡市の各地域の問題と共通する問題が多いのではないかと、地域政策としてしっかりと再構築していこうと、地域政策部をつくりました。地域振興戦略部は支所地域を担当する形でしたが、中山間地の問題であれば、旧長岡地域においても大積や宮本、山本地区など中山間地があり、コミュニティの課題は、都市部も含めた地域の高齢化や、人口減少における問題として扱っていきます。地域政策監は、広い視野で市全域に目を配りながら、コミュニティ政策、地域振興に取り組んでもらいたいです。佐々木地域政策監には、地域が元気になるような方向性を出してもらいたいと期待しております。

また、財産管理部は、行財政改革の大きな要であり、適正な管理、メンテナンスや運営のコストをいかに削減していくかという大きなテーマもあり、長岡市の将来にとって非常に大きな仕事になります。大野部長は、長岡の健全財政の堅持という観点を捉えているので、しっかり進めてもらいたいと期待しております。